

研究主題

自他のよさや可能性を認め、自己肯定感を高める教育活動の工夫

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の視点をもった、生徒指導の3つの留意点を位置づけた授業の実践



学校教育目標

**自他を大切にし夢と目標の達成に邁進する生徒
「自立と共生」**

目指す生徒像

- 自他を大切にするとともに、思いやりの心をもった生徒
- 意欲的に学習に取り組み、自らの夢と目標のために挑戦し続ける生徒
- 様々な場面で、高め合い、支え合う生徒

人権・同和教育の目標

- 社会の一員としての豊かな心と人権尊重の精神を自覚し、同和問題をはじめとする人権問題を科学的に認識して理解を深めるとともに、学校や社会から偏見や差別を自ら無くそうとする意志と実践力を育てる
- すべての生徒に対して、生きる力としての確かな学力を身に付けさせる

【知識的側面】

自分の人権を守り、他者の人権を守ろうとするための知識を理解しようとする生徒

【価値的・態度的側面】

人間の尊厳、自他の価値を尊重し、なかまとともに差別をなくす生き方をしようとする生徒

【技能的側面】

自らをみつめ、自らの立場を引き受け自己実現に向けて努力することができる生徒

他とつながり、適切な交流の中で自ら進むべき道を決定できる生徒

学習過程

人権・部落問題学習の取り組み

学力保障の取り組み

教師の支援

自己決定の場

自己決定の場では、めあてを確認し、今日の学習を見通すための自分の考えをつくる時間を設定しています。自分なりに予測したことや、登場人物の心情などを考えることで、能動的な授業参加を目指します。

【1年「なまえをかいた」導入の場面より】



主人公が、銀行でお金をおろせなかった際に流した涙の意味について考えました。自分のお金なのになぜおろせないのか、差別の結果文字を学習することができなかったことなど、様々な要因を個人で考え、自分の考えを決定していきました。

【1年英語(少人数)「Research on Australia」導入の場面より】



各自で、There is (There are)を使った文章を考えました。この後のペア学習では、お互いにクイズを出し合い、使い方をマスターしていきました。また、このあとには自分表現の仕方やクイズの出し方など、自分のことを振り返りました。

- [個別最適な学び]
- ・感情図の利用
 - ・個に応じたヒント(スライド)の利用
 - ・書き方モデルの提示
 - ・机間指導による様相観察

共感的人間関係づくりの場

班での交流、ペアでの交流を通して、他者の意見を傾聴する場を設定します。他者の意見と自分の考えを比較したり、付加したりすることで、学習内容をより深いものにします。

【3年「Aさんの相談(統一応募用紙)」展開の場面より】



社用紙の項目の中から、不適切な選考につながる項目はないか、班活動を通して考えを焦点化させていきました。互いの考えを傾聴し、私もあなたもあなまのままで受け入れられる関係性を築いていきます。他者の考えを受け入れることで、自分の考えを深めることができました。

【2年数学(TT)「図形の性質と合同」展開の場面より】



数学の授業では、星型五角形の5つの角の和が180°になることを、班員に説明を行っている場面です。根拠となる性質や定理を示し、話す順序を工夫しながら説明を行い、どうすれば相手に伝わるかどうか検討しました。また、説明を聞いている生徒は、うなずきながら傾聴する姿がありました。

- [協働的な学び]
- ・小集団活動を生かした交流活動の工夫
 - ・互いの考えを認め合うための交流活動のルールの設定
 - ・生徒の発言に対する教師の適切な指導と受容的な態度

自己存在感を感じる場

交流を通して深めた考えを言語化し、全体に発表したり、板書したりしながら、学んだことの定着を強化していきます。また、班やペアでの交流活動を通して、他者の意見を傾聴し合うことで、自分自身のもっていた考えに自信をもち、自己存在感の高揚を図ります。

【2年「山の粥」終末の場面より】



藤べえじいさんたち、ふもとのむらの人たちが、どんな願いをもって粥を振る舞ったのかを発表しました。どんな人の命も見捨てない藤べえじいさんの行動から、人の尊厳を尊重することの大切さを学ぶことができました。また、社会の制度によって残された差別があることを知り、自分自身の行動を振り返りました。

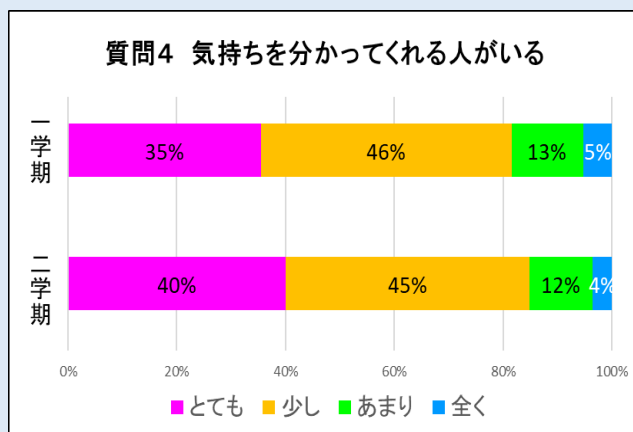
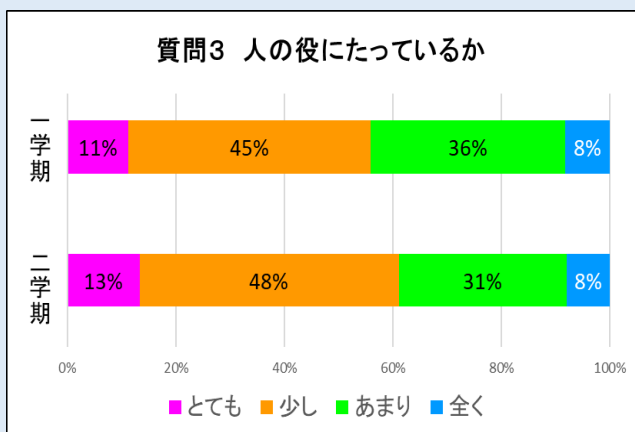
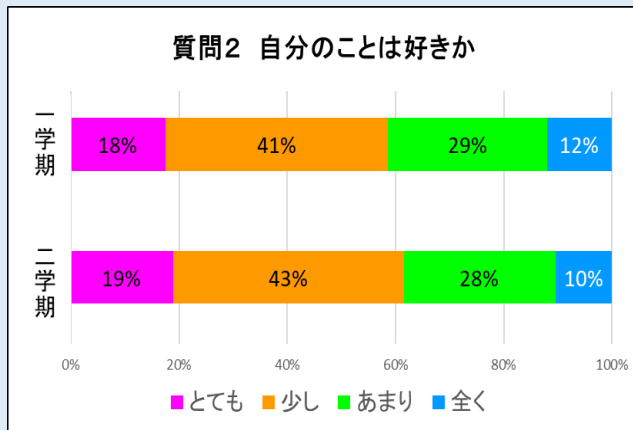
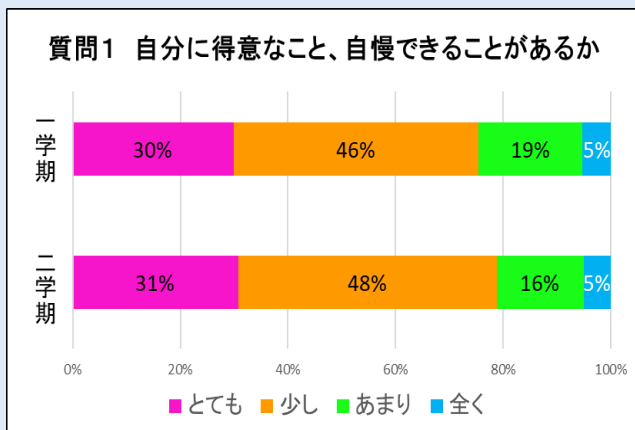
【2年技術・家庭「安心ライトの製作」週末の場面より】



回路の通電試験の結果を発表し、どうすれば正しい配線で回路を作製できるかを学級全体で共有しているところです。共感的人間関係づくりの活動によって得られた自信によって、堂々と発表することができました。

- [個別最適な学び]
- ・学習プリント等への記入、返答
 - ・Jamboard等への入力
 - ・生活記録ノートへのメッセージ

☆令和4年度 生活アンケートの結果☆



○アンケートの結果から

質問1では、自分に得意なことが「とてもある」、「少しある」と肯定的に回答した生徒の割合が3%増加した。しかし、自分に得意なことや自慢できることが全くないという生徒の割合の増減がなく、引き続き自己存在感が感じられる教育活動の継続が必要である。

質問2では、自分のことが「とても好き」、「少し好き」と回答した生徒の割合が3%増え、全体の6割の生徒が肯定的に捉えている。しかし、自分のことを好きだと感じられない生徒が1割いるところは、課題である。

質問3では、自分が人の役に「とても立っている」、「少し立っている」と肯定的に回答した生徒の割合が、5%増加(約40人の増加)し、大幅な向上が見られた。しかし、全く役に立っていないと考えている生徒の割合の増減がなく、これまでにとりこんできた教育活動に改善の余地がある。

質問4では、自分の気持ちを「とても分かってくれる」と回答した生徒の割合が5%増加した。自分の考えや意見を聞き入れてくれる人の存在が他者との関係を良好にし、自己存在感の高揚につながると考える。

実践のまとめ(○成果と●課題)

○アンケートの結果から、子どもたちの自己肯定感の向上が見られた。当日の授業でも、意欲的に活動する姿が見られ、参観して頂いた先生方からも前向きな意見を頂けた。

○「私たちは、無自覚の差別心をなくしていかなければならないと思う。」など、生徒が自分自身の行動を振り返り、今後の自分自身の生き方、行動について考えることができた。

●自分のことが好きではない生徒が約4割いる。今後も継続して、ありのままの自分が受け入れられるように、様々な教育活動の工夫が必要である。